

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	不知火町立不知火中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	0	9	19
生徒数	98	116	104	0	318	

研究の概要

1. 研究主題

「学ぶ」力を身につけた生徒の育成をめざして
-----------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

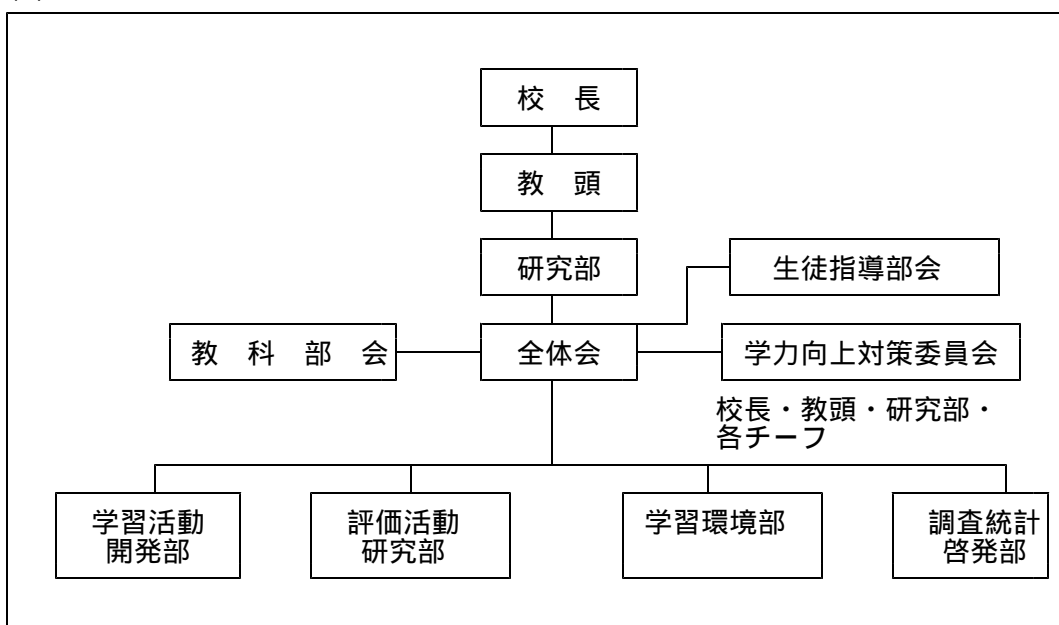
<p>全教科 教科制をとる中学校においては、単一教科に絞ることは、他の教科への広がり が期待できないため、全教科で研究することにした。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「学ぶ」力を身につけた生徒の育成を目指して 仮説</p> <p>きちんとした学習規律や学習習慣を身につけさせながら学級・教科経営を行うことで 学びの基礎・基本が身に付き、生徒一人一人に確かな学習内容を定着させることができるであろう。 個々の生徒のつまづきや課題を明確にし、個に応じた指導・支援のあり方を工夫すれば、学ぶ楽しさ、できた喜びを味わいながら主体的に学習を進めることができ学力が向上するであろう。 評価方法を見直し、生徒の学力ののびを多面的にとらえていけば、学ぶ意欲につながり、確かな学力が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>学習活動開発部 ・授業研究会を通して、生徒の能動的な学習活動を促す授業展開や基礎基本の定着をはかる手だて</p> <p>評価活動研究部 ・昨年度作成した評価基準表の見直しと授業研究会等で自己評価や個人内評価のあり方</p> <p>学習環境部 ・主体的な生徒会活動に向けての具体的実践及び学習意欲を喚起するための環境整備 ・学習規律の体得を図るための「学習の心得」の作成(生徒会を中心として) ・掲示教育を含めた学習環境づくり</p> <p>調査統計啓発部 ・学習アンケートの実施による現在の不知火中学校生徒の学習状況と実態の分析</p> <p>確かな学力育成のための土台作り ・基本的な生活習慣の育成 ・朝自習のあり方 ・学習訓練</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 「学ぶ」力を身につけた生徒の育成をめざして</p> <p>仮説</p> <p>徹底指導と能動型のめりはりのある授業展開をパターン化していくことで学ぶ意欲が高まり、学力の向上を図ることができるであろう。生徒に学習の具体的な目標を与え、目標ごとの自己評価や単元全体の自己評価をさせることで、自己分析する力や自ら学ぼうとする力が育成されるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業研究会での検証（指導主事派遣事業の活用）</li> <li>・ 学力向上へ向けた教育課程編成の工夫（選択教科のコース編成のあり方と学習形態の工夫など）</li> <li>・ その他（本年度の成果と課題をふまえ検討中）</li> </ul>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師に学力を高めるための授業改善に取り組もうという意識の向上が見られるようになった。</li> <li>・ 各教科で、徹底指導と能動型のめりはりのある授業展開をパターン化することができた。</li> <li>・ 今回の研究で、評価の客観性が広まってきた。</li> <li>・ 生徒の自治活動の基礎作りができたと思う。</li> <li>・ 実態調査ができたのは、研究の方向性を示す上でプラスになった。</li> <li>・ 1学期は、基本的な生活習慣が身につけていない生徒がおり、落ち着きを感じられなかった。学力を高めるには、その土台となる心や体が健康でなくてはならないとの考えにより、「まずは挨拶」を大事にした。朝の挨拶運動（声かけ運動）により、毎日の生徒の表情や様子を何か変化があれば担任に連絡するなど早め早めの対応ができ、1学期後半から全体的に落ち着きを感じられるようになった。また、朝の読書を継続したことで、生徒はもちろん、教師も静かな朝が迎えられている。</li> </ul>
---

## 2. 今後の課題

- ・授業研究会が少なかったため、検証が十分ではなかった。
- ・授業展開の研究とともに、自主的な家庭学習の習慣を身につける方策の研究が必要である。
- ・指導に生かされた評価になっているのかが疑問である。
- ・自己評価能力を高めるための研究を継続したい。
- ・自治活動の土台作りができたので、それを発展させていくための方策を研究していく必要がある
- ・本校の生徒はひじょうに人目を気にして持っている力を十分に発揮できないという欠点がある。挨拶にしても、胸を張って大きな声で挨拶ができていない生徒は少ない。生徒に自信をつけさせるための方策を考える必要がある。

### 学力把握のための学校としての取組

- ・標準学力検査の実施
- ・県教委作成の評価問題「ゆうチャレンジテスト」の実施
- ・学習アンケートの実施
- ・宇城地区基礎基本定着度テストの実施
- ・生徒による授業評価（各教科の授業を評価）

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・学校視察の受け入れ  
期日・場所 平成15年12月11日 不知火中学校  
テーマ・内容 「学力向上フロンティアスクールの取り組み等について」  
対象 宮崎県北方町小中学校校長
- ・宇城地区学力向上推進協議会  
期日・場所 平成16年1月29日 宇城総合庁舎  
テーマ・内容 「学力向上フロンティアスクールとしての取組」  
対象 宇城地区学力向上推進協議会委員、地教委代表、研究指定校校長、管内学校代表、保護者及び地域住民代表、地教委の教育審議員及び指導主事

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】             3学級以下                       4～6学級  
                               7～9学級                         10～12学級  
                               13～15学級                       16学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                       T・Tによる指導  
                               その他
- 【研究教科】             国語                       社会                       数学                       理科  
                               外国語                       音楽                       美術                       技術・家庭  
                               保健体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無